

り、財務省に対してエビデンスを出してしっかりと必要な交渉をしていかないといけない、この2週間が山場と熱のこもったお話であった。

超高齢社会の進化に伴い、医療費は増大することは確かである。今年「令和の米騒動」と言われるほどの米価の高騰があり、政府は備蓄米を放出することで米の不足感を改善し、米価の引き下げを図った。一方で、米農家からは、「肥料や光熱費、人件費の上昇もあり、もう辞めようかと思っていたが、この値段であれば、米を作り続けられる」というコメントもあった。一般国民の立場からは、日本人の主食である米の値上がりは家計を逼迫し、特に所得の厳しい家庭にとっては5kg 5,000円というのは耐え難い金額であり、双方を助けるための様々な政策を国は模索している。米価の上がり下がりを見るときに、どの値段が米農家にとっても国民にとってもバランスの取れた値段になるのだろうかと考えていた。

今回の医師会長のご講演の中で、医療費の問題は米価の問題と同じ構造だと話されたのはとても印象的で、物価高騰も人件費高騰ももはや医療介護機関にとっては努力の限界を超えている。今後、まだ需要が増えていくと想定された

時に、この医療介護費用の増に対して、国は「命を守り、国民が安心して生活できるインフラの一つ」として責任を持って社会保障費の配分をしなければならないし、国民の皆様にもそれぞれが収入に応じて多少の自己負担分の増額もやむを得ないと理解を求めなければならない。また、納税者としての医療介護機関を含む企業側も理解をして納税をしないといけないという言葉が心に残った。

この2週間が診療報酬の山場と仰っていたが、この原稿が掲載される頃には、方向性はほぼ決まっている事と思う。いつも多岐にわたって広い視野で動いていただいている松本会長はじめ執行部の先生方に心から感謝をすると同時に、現場は現場として国民の命と生活を守り、地域医療を守り、医療介護経営を守り、職員を守るために精一杯知恵を出し、現場からの情報もしっかりと上げていきたいと思った。

※報告書及び松本会長のスライド資料の詳細につきましてはホームページをご参照下さい。
<https://www.okinawa.med.or.jp/medical/kaihou/houkoku/202303-2/>



お知らせ

講演会・例会のご案内



講演会・例会の開催については、沖縄県医師会ホームページ（左記QRコード）をご参照下さい。

※随時更新を行っております。